

# 令和6年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市教育委員会

## はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

## <全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和6年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（文部科学省）より抜粋

### 1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

### 3 調査実施日

令和6年4月18日（木）

#### 4 調査の内容

(国語、算数・数学) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校調査は、国語、算数とし、中学校調査は、国語、数学とする。</li> <li>・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等</li> <li>② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等</li> </ul> </li> <li>・ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。</li> </ul>	
	<b>【小学校 国語・算数 各45分】</b>	
	<b>【中学校 国語・数学 各50分】</b>	
生活習慣や学習環境等 に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況 など	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
	<b>【小学校・中学校とも20～45分程度】</b>	

## 桶川市の調査結果の概況

### 小学校

<教科に関する調査>  は全国平均正答率を上回ったもの

#### <国語>

(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	桶川市	埼玉県	全国(公立)
言葉の特徴や使い方に関する事項	62.4	66.2	64.4
情報の扱い方に関する事項	86.3	87.5	86.9
我が国の言語文化に関する事項	73.6	75.3	74.6
話すこと・聞くこと	61.7	61.6	59.8
書くこと	68.5	69.2	68.4
読むこと	72.2	72.0	70.7

#### <算数>

(単位%)

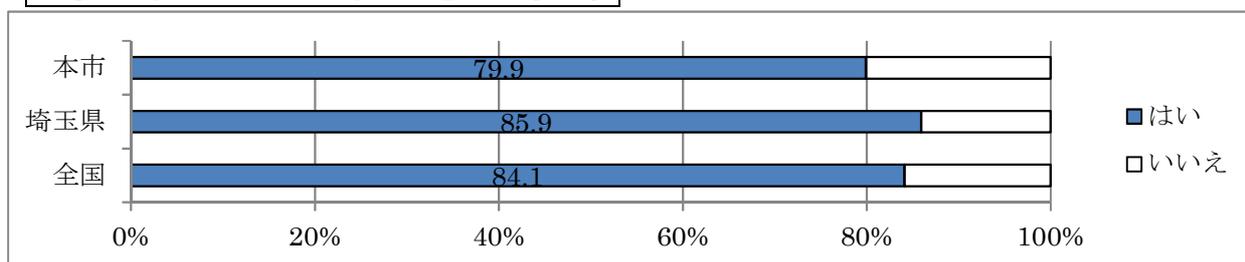
学習指導要領の領域等での区分	桶川市	埼玉県	全国(公立)
数と計算	62.8	66.2	66.0
図形	66.6	67.1	66.3
変化と関係	48.9	51.7	51.7
データの活用	62.3	62.6	61.8

＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

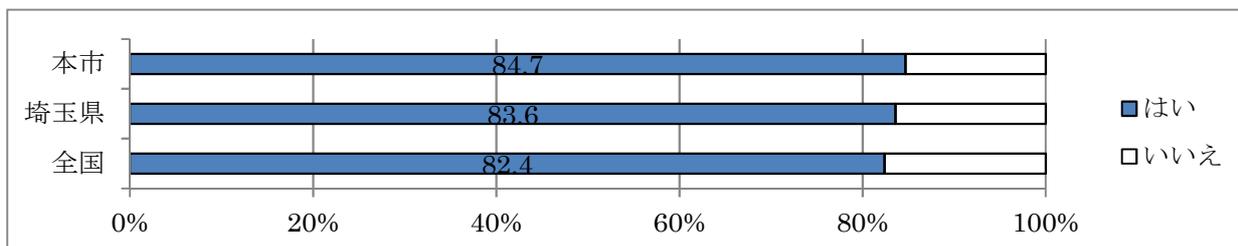
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

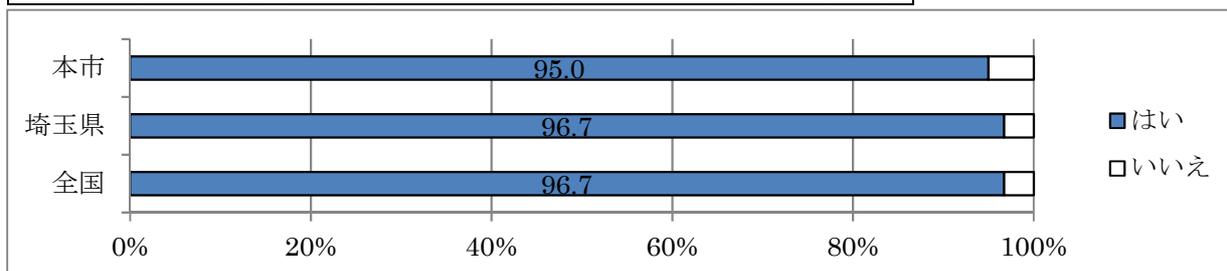
自分には良いところがあると思いますか。



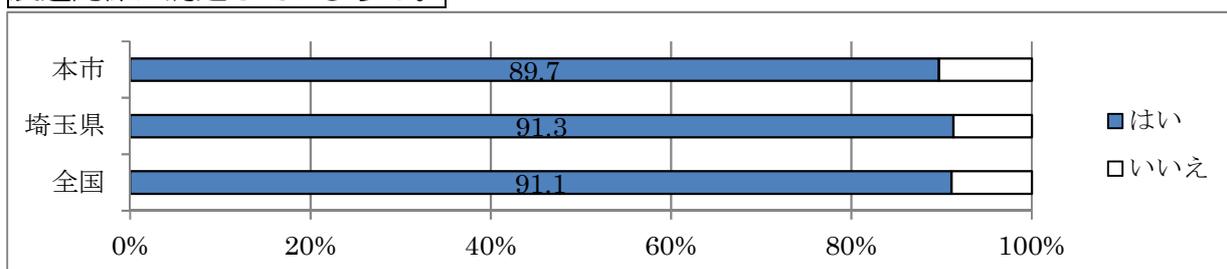
将来の目標や夢をもっていますか。



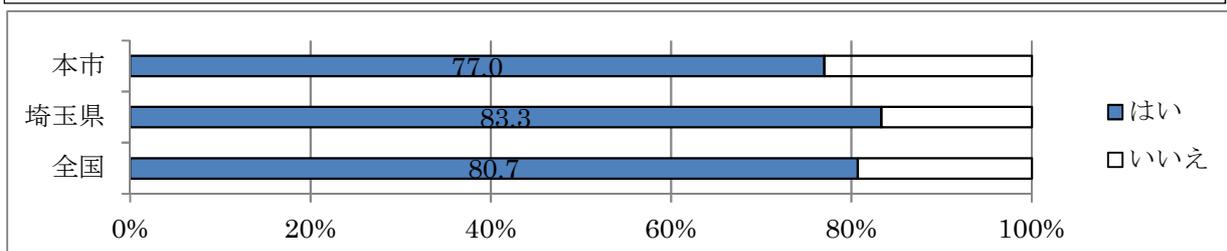
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



友達関係に満足していますか。



分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか。



## 中学校

＜教科に関する調査＞

は全国平均正答率を上回ったもの

### ＜国語＞

(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	桶川市	埼玉県	全国(公立)
言葉の特徴や使い方に関する事項	62.4	59.7	59.2
情報の扱い方に関する事項	59.3	60.2	59.6
我が国の言語文化に関する事項	78.7	75.2	75.6
話すこと・聞くこと	62.3	60.5	58.8
書くこと	71.7	66.8	65.3
読むこと	50.6	49.2	47.9

### ＜数学＞

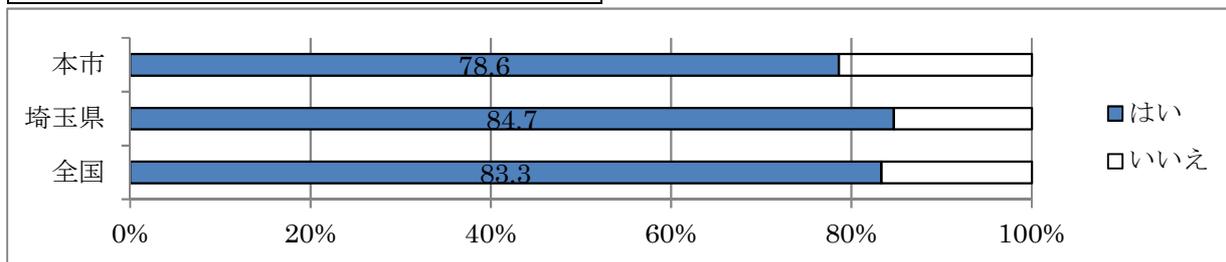
(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	桶川市	埼玉県	全国(公立)
数と式	54.2	51.1	51.1
図形	44.1	42.4	40.3
関数	63.9	61.1	60.7
データの活用	55.9	57.1	55.5

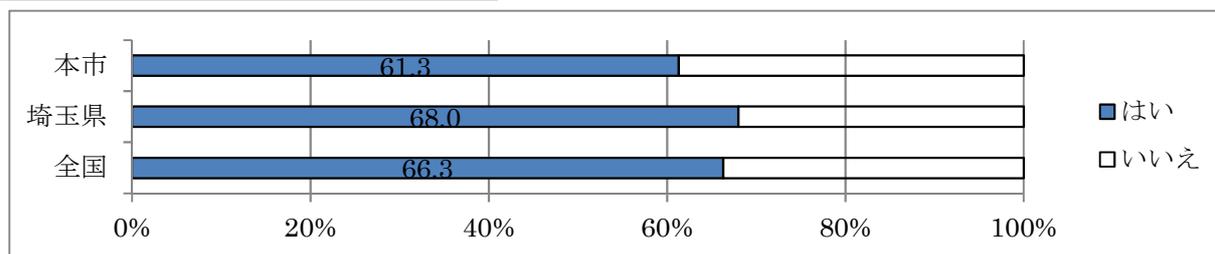
＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う  
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

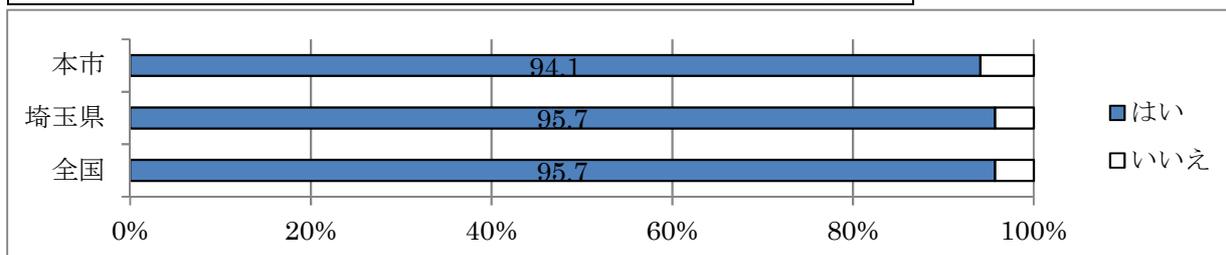
自分には良いところがあると思いますか。



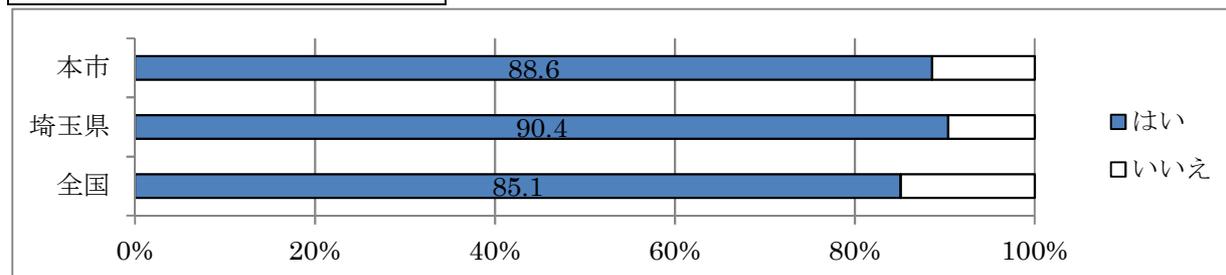
将来の夢や目標を持っていますか。



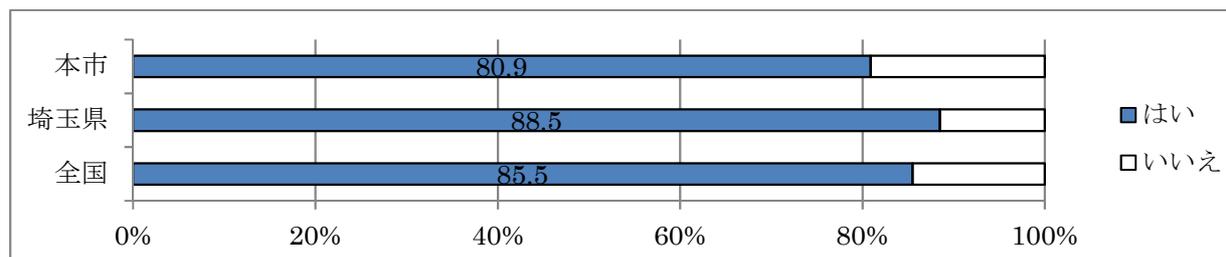
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



友達関係に満足していますか。



分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



# 桶川市の調査結果の分析・考察

## ＜小学校国語＞

### 【領域別の分析】

#### 結果からわかること

○学習指導要領の内容における知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の3項目全てにおいて、全国平均正答率を下回りました。反対に思考力、判断力、表現力等においては「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3項目全てにおいて、正答率が全国平均正答率を上回りました。

#### 分析

- 「話すこと・聞くこと」では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができています。
- 「読むこと」では、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができています。
- ◆「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。

### 【問題例①】

#### 問題 3二(2)

【話し合いの様子】を読んで、原さんが何に注目したのかについて説明したものと、最も適切なものを選択する。

#### 正答 1

本市正答率 75.5% (全国 72.5%)

#### ＜分析＞

○文章を読んで、人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題です。全国平均と比較して、本市の正答率が上回った問題となります。

登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断することが重要です。ここでは、【話し合いの様子】において、原さんが、【物語】の①や②の内容を結び付けて、「登場人物の気持ちや考え方」に着目して考えたことを話していることを捉えることが求められています。

誤答の原因としては、「作者が伝えていること」に着目していると捉えてしまっている、「物語の構成」に着目していると捉えてしまっている、「表現の効果」に着目して話していることを捉えることはできているが、「登場人物の気持ちや考え方」に着目して話していることが捉えられていない。といったものが考えられます。

### 【問題例②】

#### 問題 2三ア・イ

文章中にある——部のひらがなを、漢字でていねいに書く。

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

イ 上級生が遠くからボールをなげる

#### 正答

ア 競技

本市正答率 43.4% (県 46.7%)

イ 投(げる)

本市正答率 73.4% (全国 76.0%)

#### ＜分析＞

	誤答	誤答率 (%)	
		本市	全国
ア	「競」のみ正しい	11.4	11.0
	「技」のみ正しい	15.2	14.0
	無回答	12.1	13.2
イ	正答以外	19.1	16.1
	無回答	7.5	8.0

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題です。全国や県と比較して正答率の低い問題となっており、アは県平均を3.3ポイント、イは県平均を3.7ポイント、全国平均を2.6ポイント下回っています。

◎本や教科書を読んだり、文章を書いたりするときは積極的に習った漢字を使って、学習をしっかりと定着させましょう。

## <小学校算数>

### 【領域別の分析】

#### 結果から分かること

- 「図形」「データの活用」については全国平均正答率を上回っていますが、県平均正答率は下回っています。
- 「数と式」「変化の関係」では、全国平均正答率・県平均正答率を下回っています。

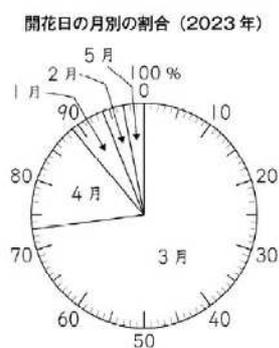
#### 分析

- 「図形」や「データの活用」の知識・技能の観点では、全国平均正答率を上回っていることから、「図形」や「データの活用」の知識・技能で高い定着が見られます。
- ◆「数と式」や「変化の関係」の知識・理解の観点や思考・判断・表現の観点において、全国平均正答率を下回っていることから、「数と式」や「変化の関係」の知識・理解や思考・判断・表現の定着に課題が見られます。

### 【問題例①】

#### 問題 5 (1)

「4月」の割合は、全体の何%ですか。



「4月」の割合は、全体の何%ですか。答えを書きましょう。

#### 正答 16

本市平均正答率 82.0%  
(全国平均正答率 80.8%)  
本市無解答率 1.9%  
(全国無解答率 1.8%)

#### <分析>

- 問題場면을的確に捉え、示された円グラフから必要な数を読みとれる児童が全国平均を上回っています。
- 割合について、円グラフが100%を表し、読み取った数が割合になることが理解できている児童が全国平均を上回っています。
- ◎普段の授業の中で、表や図、グラフ等を活用したデータ分析に関わる数学的活動を通して、表や図、グラフから数学的事象について捉えることができるように取り組んでいくことが大切です。

### 【問題例②】

#### 問題 1 (1)

ゆうまさんは、折り紙を72枚持っています。ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。

こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下のアからエまでのの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア  $72 + 28$
- イ  $72 - 28$
- ウ  $72 \times 28$
- エ  $72 \div 28$

#### 正答 ア $72 + 28$

本市平均正答率 57.4%  
(全国平均正答率 62.1%)  
本市無解答率 0.5%  
(全国無解答率 0.2%)

#### <分析>

解答類	誤答率 (%)	
	本市	全国
イ	36.6	32.5
ウ	0.9	1.0
エ	4.6	3.9

- ◆誤答を見ると、本市では、イやエの誤答をしている割合が高くなっています。28枚少ないという表現から減法や除法を選んだ児童が多いと考えられます。
- ◎問題場面に「少ない」「減った」などの言葉があるが、計算は加法を用いることになる場合において、問題の文脈に沿って図などに表すことを通して数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが大切です。

<小学校質問紙調査>

【質問例①】

質問

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度活用しましたか。

回答結果

「ほぼ毎日」「週 3 回以上」と答えた本市児童の割合  
64.8%  
 (全国 59.5%)

<分析>

- ◎昨年度同様、本市ではどの学校でも ICT を活用して授業を進めていることが伺えます。
- ◎資料を検索すること、自分の考えをまとめること、発表するための資料を作成することなど様々な学習場面で ICT を効果的に取り入れ、児童が活用することが主体的・対話的で深い学びにつながります。

【質問例②】

質問

自分にはよいところがあると思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市児童の割合  
78.6%  
 (全国 83.3%)

<分析>

- ◆「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、全国と比較して 4.7 ポイント下回っています。
- ◎学校生活における様々な取組の中で、一人一人のがんばりやよさを積極的に褒め、自信をもたせる指導を進めていくことが自己肯定感を高めると考えられます。

クロス集計の結果

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」×「教科に関する調査」(正答率)

選択肢	児童数の割合	国語 (平均正答率)	算数 (平均正答率)	2教科 (平均正答率)
当てはまる	39.4%	72.8%	66.8%	69.8%
どちらかといえば、当てはまる	42.8%	66.0%	60.1%	63.1%
どちらかといえば、当てはまらない	14.6%	62.6%	56.6%	59.6%
当てはまらない	2.6%	57.1%	52.1%	54.6%

- ◎「当てはまる」と答えた本市児童の2教科(国語、算数)の平均正答率は、「当てはまらない」と答えた本市児童の2教科(国語、算数)の平均正答率よりも 15.2%高くなっています。
- ◎「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の2つの群と、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の2つの群を比べると、小学校、中学校ともに2教科(国語、算数)の平均正答率に大きな差がみられます。教師主導の一斉型授業の学習形態だけでなく、児童が課題を解決するために多様な考えに触れ、自ら学び方を選択できる学習形態も実践していくことが、児童の学力を向上させることにつながると考えられます。

## ＜中学校国語＞

### 【領域別の分析】

#### 結果からわかること

○学習指導要領の内容における知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の2項目において、全国及び県の平均正答率を上回りました。また思考力、判断力、表現力等においては「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3項目全てで、全国及び県の平均正答率を上回りました。

#### 分析

○「文章の全体と部分に注意しながら、主張と例示を捉えることができる」ことや、「文脈に即して漢字を正しく書くことができる」ことなどについて、高い定着が見られます。

◆「情報の扱い方に関する事項」のうち、「意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること」に課題が見られます。

### 【問題例①】

#### 問題 三四

表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する

#### 正答例

・ア 窓から差し込む光を浴びながら、今日も僕はいつもの場所で君を待っている。

・イ 明るい光の情景を描写することで、「僕」の期待感が印象的に伝わる。

本市正答率 57.9% (全国 49.3%)

#### ＜分析＞

○自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題です。全国平均正答率と比較して、本市の正答率が大きく上回った問題となります。

正答を導くためには、①アに、『あの日から数日が過ぎた。』に適切に続くように、表現を工夫して物語の最後の場面を書くこと。②イに「アのように表現することで、『僕』の次の出番への期待を伝える上で、どのような効果があるのかを具体的に書く」という二つの条件を満たす必要があります。

誤答の原因としては、表現を工夫して物語の最後の場面を書くことはできているが、その表現がどのような効果があるのかを具体的に書くことができていないことや、アの記述が「僕が今日も本棚の隅で期待しながら待っていることを、倒置を使って書く」といったように、物語の最後の場面としての形になっていない、といったことが考えられます。

◎物語を創作する際には、登場人物や場面、状況等を設定し、発端から結末までの展開を考えて書くことや、与えられた設定の中で展開を膨らませて書くこと、自分の経験を基に書くことなどが大切です。

### 【問題例②】

#### 問題 二四

本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。

#### 正答例

・ア 葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。

本市正答率 44.1% (全国 42.6%)

#### ＜分析＞

◆目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題です。全国平均正答率を上回ってはいるものの、比較的的正答率の低かった問題となります。

正答の条件は、①アとイのいずれか一つの〈着目する内容〉を選んで、その記号を塗り潰している。②選んだ〈着目する内容〉について、必要な情報を適切に取り上げて書いている。③選んだ〈着目する内容〉について、まとめて書いている。という3つの条件を全て満たすこととなっています。

誤答例としては、選んだ内容について、取り上げた情報をまとめて書くことはできているが、取り上げる情報が十分ではない、もしくは逆に必要な情報を取り上げることはできているが、まとめて書くことができていない等がありました。

◎条件のある文章を書くときは、全ての条件を意識して、丁寧に確認しながら書きましょう。加えて、説明文では文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係など、文章の構造を適切に捉えることが大切です。

# 〈中学校数学〉

## 【領域別の分析】

### 結果から分かること

- 「数と式」「図形」「関数」では県平均正答率・全国平均正答率ともに上回っています。
- 知識・技能と思考・判断・表現の観点において、県平均正答率・全国平均正答率がともに上回っています。
- ◆「データの活用」では、県平均正答率を下回っています。

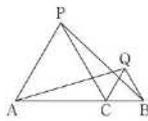
### 分析

○記述式の問題において、県平均正答率・全国平均正答率がともに上回っていることから、主体的・対話的で深い学びを行った結果、表現力が身についたものと考えられます。

## 【問題例①】

### 問題 9 (1)

(1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあって、 $AQ = PB$ になると予想しました。  
桃子さんの予想した $AQ = PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \cong \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ = PB$ になることの証明を完成しなさい。



### 正答例

正三角形の辺はすべて等しいから、

$$AC = PC \quad \dots\dots ①$$

$$CQ = CB \quad \dots\dots ②$$

正三角形の1つの内角は $60^\circ$ より、

$$\angle ACQ = 60^\circ + \angle PCQ$$

$$\angle PCB = 60^\circ + \angle PCQ$$

よって、 $\angle ACQ = \angle PCB \quad \dots\dots ③$

①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、

$$\triangle QAC \cong \triangle BPC$$

本市平均正答率 35.6%

(全国平均正答率 25.8%)

本市無解答率 23.6%

(全国無解答率 33.6%)

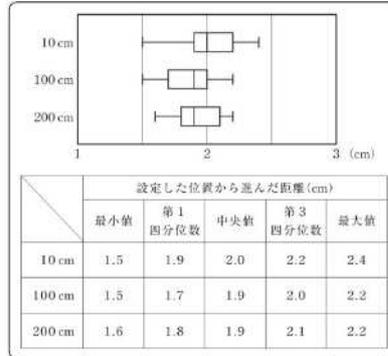
### <分析>

- 本市正答率は、全国平均正答率に比べて9.8ポイント上回っています。無解答率も全国平均正答率と比べると10.0ポイント低くなっています。「図形」思考・判断・表現の観点に高い定着が見られます。
- ◆正答率が全国平均正答率を上回っているものの、正答率が35.6%と低い値になっているため、筋道を立てて考え証明することに、引き続き課題があります。
- ◎事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切です。

## 【問題例②】

### 問題 7 (3)

設定した位置から選んだ距離の分布



- 障害物からの距離を10 cm、100 cm、200 cmと長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。
- ア 四分位範囲はだんだん大きくなる。
  - イ 四分位範囲はだんだん小さくなる。
  - ウ 四分位範囲は大きくなって、小さくなる。
  - エ 四分位範囲は小さくなって、大きくなる。
  - オ 四分位範囲は変わらない。

### 正答 オ

本市平均正答率 44.2%

(全国平均正答率 48.5%)

本市無解答率 0.6%

(全国無解答率 0.9%)

### <分析>

- ◆本市正答率は、全国平均正答率に比べて4.3ポイント下回りました。複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することに課題が見られます。
- ◆イと回答している生徒が27.2%となっていることから四分位範囲と範囲を混同した生徒が多いと考えられます。
- ◎四分位範囲はデータの散らばりの度合いを表す指標であり、第3四分位数と第1四分位数の差で求められることを確認することが大切です。

## <中学校質問紙調査>

### 【質問例①】

#### 質問

将来の夢や目標をもっていますか。

#### 回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市生徒の割合  
84.7%  
 (全国 82.4%)

#### <分析>

- ◎「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、4.5ポイント全国と比較して2.3ポイント上回っています。
- ◎学校においては、進路教育やキャリア教育を計画的に行い、社会とのつながりをもたせる職業体験をすること、家庭においては、自分の役割をもち、それを果たすことが一人一人の自己実現の力を醸成することや生徒の将来への夢や目標設定につながっていると考えられます。

### 【質問例②】

#### 質問

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

#### 回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市生徒の割合  
70.3%  
 (全国 76.2%)

#### <分析>

- ◆「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均と比較して5.9ポイント下回っています。
- ◎一つの答えを導き出す学習から、自分と違う意見をそれぞれが出し合い、より適切な答えを見出していく学習を実践していくことが、生徒の主体的、対話的で深い学びの実現となっていくと考えられます。

### クロス集計の結果

「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」×「教科に関する調査」(正答率)

選択肢	児童数の割合	国語 (平均正答率)	数学 (平均正答率)	2教科 (平均正答率)
当てはまる	31.1%	64.9%	59.9%	62.4%
どちらかといえば、当てはまる	53.6%	61.2%	54.8%	58.0%
どちらかといえば、当てはまらない	11.9%	53.1%	46.2%	49.7%
当てはまらない	2.7%	51.0%	50.9%	50.95%

- ◎「当てはまる」と答えた本市生徒の2教科(国語、数学)の平均正答率は、「当てはまらない」と答えた本市生徒の2教科(国語、数学)の平均正答率よりも11%高くなっています。
- ◎「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の2つの群と、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の2つの群を比べると小学校、中学校ともに平均正答率に差がみられます。教師主導の一斉型授業の学習形態だけでなく、児童が課題を解決するために多様な考えに触れ、自ら学び方を選択できる学習形態も実践していくことが、児童の学力を向上させることにつながると考えられます。



## <埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和6年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

### 1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

### 2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

### 3 調査実施日

小学校 令和6年5月15日（水） 中学校 令和6年5月9日（木）

### 4 調査の内容

#### （1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

#### （2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

## 桶川市の調査結果の概況

**小学校** <教科に関する調査>   は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	13	63.5	63.1	14	65.8	65.1	15	63.2	62.8
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	45.9	41.8	3	55.9	53.1	2	55.3	55.3
話すこと・聞くこと、書くこと	9	47.4	45.5	6	57.4	51.6	5	51.7	52.1
読むこと	4	40.9	39.9	8	53.0	48.0	9	49.4	49.4
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑	↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	65.7	65.5	14	53.7	50.9	13	52.9	56.1
図形	6	55.1	56.1	8	67.8	64.0	8	50.5	51.3
4年測定 5、6年変化と関係	6	63.6	63.2	6	53.6	48.6	7	61.3	58.8
データの活用	6	64.3	62.1	4	55.3	48.0	5	26.5	25.8
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑		↑↑↑	↑↑

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本市の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年	
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻		93.5	94.2	94.3
		<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	91.2	94.4	92.4
	② 授業の開始時刻		87.1	91.5	93.4
		<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	83.5	92.9	90.1
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ		78.5	82.4	84.9
		<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	73.9	82.4	76.7
④ 整理整頓		73.8	76.8	76.0	
	<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	68.1	76.4	72.2	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ		75.9	77.6	77.9
		<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	74.9	79.9	74.5
	⑥ 返事		91.6	91.6	90.1
		<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	90.9	92.2	88.4
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ ていねいな言葉づかい		83.2	88.8	88.2
		<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	84.5	92.2	85.9
⑧ やさしい言葉づかい		82.7	86.7	84.5	
	<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	82.5	87.8	81.4	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備		80.4	85.7	86.2
		<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	81.1	86.8	85.8
	⑩ 話を聞き発表をする		77.7	79.2	76.0
		<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	75.7	75.5	70.5
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度		88.3	88.5	86.7
		<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	89.7	88.4	84.0
⑫ 掃除・美化活動		89.5	89.6	87.9	
	<span style="background-color: #cccccc;"> </span>	87.5	90.5	85.6	

## 中学校

＜教科に関する調査＞  は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	14	61.5	60.5	13	67.7	67.6	12	69.5	67.5
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	77.0	74.0	8	44.3	43.7	7	73.4	69.5
話すこと・聞くこと、書くこと	4	61.2	58.9	3	69.8	72.4	6	59.1	55.4
読むこと	8	57.1	52.3	7	60.7	60.7	8	75.1	70.4
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑	↑↑		↑↑↑	↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑

数学（内容は算数）	第1学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と計算	11	65.2	61.0
図形	11	58.2	54.4
変化と関係	7	55.6	51.4
データの活用	4	39.1	34.1
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑	↑↑

数学	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と式	14	55.8	53.7	11	68.1	66.1
図形	8	35.7	33.3	8	66.6	59.3
関数	6	60.0	57.6	7	60.5	57.0
データの活用	5	54.5	49.3	7	45.7	42.3
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑	↑

英語	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	81.8	81.1	10	62.9	59.9
読むこと	18	57.8	58.0	18	57.9	54.0
話すこと [発表・やり取り]	2	40.1	37.0	2	52.9	45.5
書くこと	6	51.2	49.8	6	56.0	50.7
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑↑

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本市の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	98.0	96.6	95.9
		97.8	95.8	96.0
	② 授業開始時刻	96.0	96.7	97.1
		94.6	95.8	97.3
	2 身の回りの整理整頓をする			
③ 靴そろえ	88.7	89.9	92.5	
	85.6	88.3	92.8	
④ 整理整頓	75.2	78.0	80.2	
	73.9	79.1	78.9	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	84.7	83.0	85.3
		82.4	81.7	85.4
	⑥ 返事	91.4	91.6	93.2
		89.6	91.3	93.3
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
⑦ ていねいな言葉づかい	90.2	91.2	93.4	
	90.8	89.5	94.3	
⑧ やさしい言葉づかい	89.6	88.2	91.4	
	90.6	86.9	90.9	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	91.6	91.7	93.9
		92.8	91.1	95.1
	⑩ 話を聞き発表する	79.4	79.1	82.1
		80.8	76.1	83.3
	6 生活のきまりを守る			
⑪ 集団の場での態度	93.6	94.7	96.3	
	94.1	93.0	94.9	
⑫ 掃除・美化活動	88.0	87.5	89.1	
	85.8	84.3	86.9	

## 桶川市の学力向上の取組

教育委員会では、学力向上を教育行政の最重要課題として位置付けており、各学校におけるより一層の学習指導の改善・充実に向け、支援を行っています。「確かな学力」を身に付けさせるために、『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善と各教科等における『指導と評価の一体化』の推進、「一人一台端末等の ICT を効果的に活用した授業実践」を重点に取り組んでいるところです。

また、各学校においては、各種調査の結果を分析して成果や課題を明らかにするとともに、学力向上プランを見直し、教職員で課題を共通認識して、授業改善等に取り組むことを確認しています。教育委員会としましては、市内全小・中学校への学校訪問を行い、埼玉県教育局南部教育事務所の支援を受けながら、学校課題研究の充実や学力向上に向けた授業改善等についての指導・助言を通して、各学校の取組の推進を支援してまいります。

### 1 学校課題研究（校内研修）の充実

- (1) 研究主題に迫るための授業研究会の実施
- (2) 今年度の研究発表校

学校名	研究領域	研究主題等	研究発表会
桶川小学校	教科 (算数科)	自ら課題を見つけ、粘り強く学習に向かう児童の育成	令和6年 11月8日(金)
桶川東小学校	学習指導・学力向上 (算数科)	基礎・基本的な学力の確実な定着 ～児童が『わかって楽しい、できて楽しい』を味わえる指導技術の向上を目指して～	令和6年 11月12日(火)
桶川中学校	学習指導・学力向上	豊かに学び続ける生徒の育成 ～学力向上のための指導方法の工夫を通して～	令和6年 11月22日(金)
川田谷小学校	学習指導・学力向上	主体的に判断し、よりよい人間関係を築くことのできる児童の育成 ～学びの共同体を要として～	令和6年 11月28日(金)

### 2 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の推進

- (1) 学習の見通しをもち、粘り強く学習に取り組み、学んだことを振り返る学習活動の充実  
【主体的な学びの実現】
  - 学習課題（ねらい）の明示
  - 一人一人の自分合った追究方法や手順等の選択・決定への支援
  - 課題に対応したまとめと、学びの振り返りの徹底
- (2) 思考力・判断力・表現力の育成を図る言語活動の充実【対話的な学びの実現】
  - 互いの意見の交流や発表を積極的に行う授業の展開
- (3) 習得・活用・探求といった問題解決的な学習の充実【深い学びの実現】
  - 身につけた力をもとに、新たな課題をみつけ、解決し、新しく創り出すことのできる学習計画と評価の工夫

### 3 一人一台端末の効果的な活用の推進

- (1) 個別最適で協働的な学びの実現
  - 児童生徒一人一人の目的に合った追求活動と表現活動の実現に向けた ICT の活用
  - 全ての児童生徒が情報の編集を経験し、瞬時に多様な考えを共有できる学習活動の工夫

### 保護者の皆様へ

今回の調査で「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に対し、小学校では88%、中学校では93%と、多くの児童生徒が肯定的な回答をしています。ご家庭におきましても、学校や社会において自分も相手も大切にすることがよりよい生き方につながることを話題にさせていただきようお願いいたします。保護者の皆様には、今後とも本市の学校教育活動にご理解ご協力をお願いいたします。